

東京大学経済学部所蔵

国労 マイクロ版

35ミリマイクロフィルム

全156リール

セット特価¥2,808,000 (税別)

成城学園学園長 兵藤 釗

国鉄労働組合は、1950年代から60年代にかけ、公労協の中軸組合として総評運動の牽引車となり、IMF・JCに結集した民間大企業労組とは対極的な運動を展開した。職場闘争を基底にすえた国労運動の到達点は、70年代初頭の反マル生闘争の過程で沈殿していった国鉄労使関係のなかに象徴的に示されているが、それは、オイルショックを契機とするスタグフレーションからの脱却をめざす行政改革の攻撃目標の一つとなった。その結果、労使関係改革を焦点にすえた国鉄の分割民営化は行政改革の帰趨を左右する攻防となったが、分割民営化反対を掲げた国労そのものの分裂によって幕が引かれることとなった。

バブル崩壊後、成果主義に基づく個別管理の進展のなかで、労働組合の規制力の後退を嘆く声が広がっただけでなく、日本はもともと労働組合とはなじみにくい土壌をなしているのではないかという声さえ聞かれるようになった。労働組合の後退は何も日本だけに見られる現象ではないが、そもそも資本主義の世界において労働組合が足場を固めたのは19世紀レッセフェアの時代であったという歴史的事実を踏まえてみれば、市場原理主義が声高に叫ばれている今日ほど労働組合的団結の必要が認識されなければなるまい。

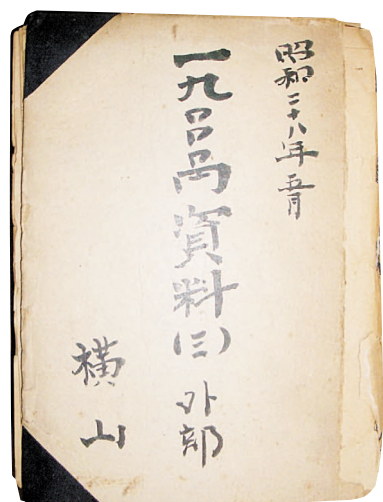
だが、それは組合的団結の復権を唱えればすむというわけではない。今日の日本において、どのような質を持った団結が有用であるか、あらためて検討されなければならない。眼前に展開する労働組合の現実の点検とともに、戦後日本の組合的団結の質を再吟味する作業が求められている。本資料は、そうした精査に耐える広がりと深さをもった貴重な資料と言える。

東京大学大学院経済学研究科・経済学部 教授 佐口 和郎

現在、雇用・労働に関わる分野は、激しい変化に晒されているといわれている。だが、その変化がどのような意味で新しさをもつのかについての正確な測定は、十分には行われていない。他方で「日本的」なるものの評価の「ゆれ戻し」も散見される。このような現状認識の混迷を取り除いていく有力な方法のひとつが歴史分析であることはいうまでもない。特に、既存の「思い込み」から自由になったマイクロレベルでの雇用・労働の歴史分析の着実な進展は、現状についての新しくエキサイティングな理解に我々を導いてくれるだろう。しかしながら、こうした歴史分析は上質な素材がなくては成り立たない。制度の断片や表面の観察ではだめなのである。例えば雇用・労働に関わる諸制度のダイナミズムを把握するには、個々の制度のみでなく、それらの相互補完的關係（あるいは緊張関係）を把握することも必要となる。労使関係制度、賃金・人事諸制度、仕事のルール、労働者の生活実態などの相互の關係が検討されねばならない。また諸制度の生成・運用の内実を深く知るには、それらについての労働組合内部での議論や交渉過程の分析も不可欠となる。諸制度への労働者側の認識やコミットメントの程度を知ることが必要だからである。

近年、かつての人事・労務管理担当者や労働組合幹部へのインタビュー等は旺盛に行われ、その成果が公刊され始めてはいるが、系統的かつ体系的な資料集は皆無に近かった。そうしたなかで、本資料集は、国鉄という巨大な「企業体」における労働組合運動や労使関係のみならず、賃金および人事制度等々の実態、さらには労働者の生活状況や意識についての詳細かつ包括的な一次史料が収録されているという意味で、極めて貴重なものだといえる。そして先に

述べたような雇用・労働に関わる諸制度のダイナミズムや内実の分析を可能にするだけの上質な素材が十二分に含まれているのである。



発売元

丸善

国労 マイクロ版

35ミリマイクロフィルム

全156リール

セット特価¥2,808,000 (税別)

1946年2月に結成された国鉄労働組合（国労）の内部資料・マイクロ版。かつて東京駅前にあった国労会館の移転に伴い、1997年に国労から東京大学経済学部へ寄贈されたものである。賃金関係資料を中心に、戦後の賃金制度・定員制度・人事制度の改革、労働給付と反対給付をめぐる国労内部の各種部長会議および各職能別協議会での討議、国鉄労働者の生活と意識に関する実態調査、そして「マル生」時代における労使の熾烈な攻防などを収録。敗戦直後から分割・民営化に至る40年間をカバーした、最大規模にして第一級の労働一次史料である。「昔陸軍、今総評」といわれた労働運動全盛期の主役であり、経済復興から高度成長さらには経済大国へと歩んだ日本の戦後史において、常に異彩を放つ存在であった国労の営みを、その内側より観察できる稀有な資料として、関連各領域の研究者にお薦めしたい。

分 売 (記載の価格はすべて税別)

賃金資料 70リール ¥1,260,000

組織結成の1946年から1960年代末までの基本給、昇給、諸手当、賞与、退職金に関する基本資料が、調停・仲裁に関する資料および各種の調査資料とともに収録されている。戦後における国鉄の賃金制度の変化が詳細に把握できるだけでなく、国鉄労働者の賃金実態の時系列的な分析が可能となる資料である。

会議・集会資料 16リール ¥288,000

主に1950年代後半の合理化時期および「マル生」以降、分割・民営化に至るまでの、「全国業務部長会議」など各種部長会議と「職場活動家全国交流集会」等の記録を収録した。労働給付と反対給付をめぐる諸事項が国労内部でどのように意思決定され、現場にどのように浸透していったかを詳細に観察できる貴重な資料である。

一般資料 17リール ¥306,000

主に1950年代に行われた、国労本部の企画部、交渉部、賃対部などの政策立案過程や各種活動に関する多様な資料を収録。この時期、主な団体交渉事項が国労内部でどのように議論され、決定されたかが観察できる。

諸資料 11リール ¥198,000

主に1960年代以降の国鉄労働者の生活と意識に関する実態調査を収録。「家計簿調査」「退職者の追跡調査」「地方意識調査」などが含まれており、この時期の一般組合員の生活実感が垣間見られる。

調査部関係資料 6リール ¥108,000

1950年代半ばより「マル生」期に至る調査部活動に関連した資料を収録。この時期行われた国鉄の合理化の実態と、これに対する国労の政策および運動の実情が把握できる。

その他 36リール ¥648,000

組織結成の1946年から1960年代末までの賃金制度、定員制度、人事制度に関する労使の政策および交渉過程が収録されている。敗戦直後全国でいち早く導入された職階級に関する資料、職制および定員に関する資料、昇進に関する資料のほか、国労組織の重要な構成部分であった機関車協議会、施設協議会など各種職能別協議会の資料が含まれており、人事労務にかかわる諸制度の形成をみるに最適の資料である。